

# 低線量肺がん CT 検診をご希望の方へ

日本人の死因の第1位は悪性新生物（広義のがん）ですが、その中で肺がん死亡数が最多です。

（2017年部位別がん死亡数 74,200人、男性の1位、女性の2位）

55～74歳の重喫煙者（1日本数×年数が600以上、禁煙後15年以内）を対象とした調査では、低線量CT検診で早期に肺がんを発見し、治療することによって、肺がん死亡率が1年あたり約20%減少したと報告されています。

## 低線量とは？病気の発見に影響はないの？

低線量とは、通常CT検査の約3～5分の1の被ばく量でCT検査を行います。画質は低下しますが、肺がん発見率には影響は少なく、胸部レントゲン検査と比較して、より小さく、より早期の肺がんを発見することが可能です。

## 検査の方法は？

検査台に仰向けになり、大きく息を吸い、10秒前後の息止めをしていただいている間に撮影します。

造影剤は使用しません。



## 低線量肺がん CT 検診の注意点

検診で異常影を認めても、結果的に肺がんでないことも多く、その中には肺がんと鑑別が難しい影もあります。そのため気管支鏡検査等の組織検査や、CT 再検査等の追加画像検査が必要となる場合があります。

CT 検診の被ばくのため、新しく「がん」が発生したという報告はありませんが、低線量とはいっても放射線被ばくがあります。

定期的な CT 検診ですべての肺がんが早期にみつかるわけではありません。中には進行が非常に速い悪性度の高いがんが存在します。

また、以下に該当する方は対象外とさせていただきます。

- ①40 歳未満の方：以下の注意点をご確認ください
- ②ペースメーカー・植え込み式除細動器を装着されている方  
：機器の影響で画像が広範囲に低下しますので、対象外とさせていただきます。主治医とのご相談をお勧めします。
- ③妊娠中またはその可能性のある方

## 検査対象年齢についての注意点

当院では原則として 50 歳以上の方を肺がん CT 検診の対象とさせていただきます。

40 歳未満の方は、放射線被ばくによるデメリットを考慮し、対象外とさせていただきます。

40～49 歳の方は、喫煙歴や家族歴などの理由により、ご希望される場合には、上記注意点（デメリット）を確認していただき、ご検討の上、お申込みください。